

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 12月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500398		
法人名	株式会社 歩歩		
事業所名	グループホーム 歩歩		
所在地	広島県呉市音戸町渡子2丁目16番20号		
自己評価作成日	令和2年11月14日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500398-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年12月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

「常に相手の立場に立ち考え判断し行動する」という理念に基づきケアを実践しています。入居者様の意向を尊重しその人らしく生活できるよう個別ケアに取り組み、常に自立支援の視点を意識しかかわりを持っています。十分に備えたリハビリ機器は入居者様の身体機能の低下を予防しているほか、退院後の回復訓練にも大きな成果を出しています。歩くことは元気の源として、日中は日光・外気浴、散歩を習慣にすることで体内リズムを整えることを大切に考えています。隣接するふれあいホールでは季節の行事やレクリエーションを開催したり、巨大スクリーンによる映画上映会を行い、入居者様に喜んで頂いています。医療連携では、日中は看護師が常駐し丁寧な健康観察にて入居者様の全身状態を把握しています。緊急時は24時間オンコール体制が可能であり近隣のかかりつけ医が往診するため迅速な対応ができております。毎月のクッキングやお楽しみ食では食の楽しみを感じて頂いております。最期までその人らしく快適な日々を送っていただくために精一杯のサポートを実践しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所理念「常に相手の立場に立ち考え判断し行動する」を基に利用者を支援している。利用者とは1対1で話し合える機会を設けて要望を把握し、要望を反映した支援を行うように努めている。日常業務では、利用者を優先した支援を行い、身体機能維持の為に機械を利用したりリハビリを利用者毎に計画を立てて実施している。「文化祭」では、生け花などの作品を展示している。調理専門員が調理した食事を提供し、菜園で栽培した野菜を利用し、クッキングでは利用者と一緒に食事やおやつを作り、利用者の要望でお寿司を提供することもある。年2回、避難訓練を行い、夜間想定訓練では、夜間勤務者がエレベーターを使用せずに利用者を避難・誘導する訓練を行っている。新型コロナウイルス感染防止の為に、運営推進会議は書面での会議となり、家族の面会も制限されているが「オンライン面会」を行うなど工夫をして業務を行っている。

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「常に相手の立場に立ち考え判断し行動する」という理念に基づいてケアを実践している。理念は職員室に掲示し全職員が共有できるようにしている。	事業所理念「常に相手の立場に立ち考え判断し行動する」に基づき、利用者の支援を行っている。理念に沿った支援が実施されているか振り返り、問題が生じた際には、管理者などが指導している。ケアプランのモニタリングの際に、理念に沿った支援実施状況であるかを評価している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	入居者が外気浴や散歩で屋外に出ることで顔なじみの関係を築くよう意識し、挨拶や会話ができるように促している。	自治会長が運営推進会議に参加し、地域の祭りへ招待されるが、高齢者が行き難い場所であるので断念した経過がある。事業所の行事への参加を地域住民に知らせたが、参加者がなかった。その後、新型コロナ感染が拡大し、地域との交流が中止されている。	事業所の「文化祭」に地域住民を招待して作品を見てもらったり、地域の保育園との交流などを検討し、地域との交流が促進することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の認知症の相談窓口であることを自治会長や地域の民生委員へ伝えている。また、運営推進会議で認知症の方の関わり方について事例を通して伝えている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進委員にはかかりつけ医、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、呉市福祉保健課、家族4名で構成し定期的に書面会議にて開催している。意見要望は別紙にて返送して頂き職員間で情報共有し改善やサービス向上に向けて取り入れている。	運営推進会議は、地域住民・家族・地域包括支援センターが参加し、定期的開催されている。現在は、新型コロナ感染防止で「書面会議」を実施し、書面での意見交換を行っている。出席者家族の要望で、「オンラインによる面会」を実施している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2ヶ月に1回運営推進会議の資料、議事録を郵送することでサービス内容を伝えている。また、貴重な意見を返送にて頂くことで関係を築いている。	市職員が、年1回、運営推進会議に参加し、その際に意見交換を行っている。地域包括支援センターからの利用者受け入れの相談に応じたり、事業所からは成年後見制度の相談をしている。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体的拘束適正化のための指針」を事業所内に掲示し職員の理解を図っている。毎回の運営推進会議にて身体的拘束適正化委員会を行い、現状報告やあらゆる取り組みを伝え委員の方から意見を頂いている。年2回の施設内勉強会では個別の事例を含めて身体拘束をしないケアの実践に努めている。	年2回、身体拘束に関する研修を行い、「身体拘束適正化の為の指針」チェックリストについて説明している。特に「スピーチロック」に関して注意を促し身体拘束をしないケアに努めている。「運営推進会議」は「身体拘束適正委員会」を兼ね、事業所内の状況報告と意見交換を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止と共に虐待防止の施設内研修会を行っている。何が不適切ケアなのかを知り、気が付いた職員は相手に伝えることで組織全体で言いやすい雰囲気をつくるよう意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者がいる。後見人とは随時、連絡をとりあい情報交換、情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、報酬改定時は書面にて説明を行い、疑問質問について尋ね、理解納得を得てから署名を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者へは個別に面談し困りごとや不安なこと要望を聞いている。家族は面会時などに意見要望について尋ねている。施設内に意見箱を設置し誰でも投稿しやすいようにしている。	家族が面会に来られた際に意見・要望を聞いている。現在は、新型コロナ感染防止の為に家族の面会を制限し「オンライン面会」を実施している。家族からの要望で、利用者への感染防止として、外部からの入所を制限している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日朝夕の申し送りや申し送りノートで意見や提案を聞く機会を設けている。報告や連絡事項はノートに記載すること情報共有を図っている。現在、コロナ禍の為ミーティングは開催していないが、意見提案がある際は介護長、リーダーを通して検討していくよう対応している。職員個別面談を実施している。	申し送りや年1回の職員面談、日常の業務で職員の要望を聞いている。職員の意見により、利用者への支援を優先した業務を行うように徹底し、利用者支援を優先して休憩を取るようにした。新型コロナウイルス感染防止策として、「密にならない」ように職員の休憩場所を新たに増設した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務意欲や能力により役職を設けたり、研修会への参加、資格の取得を促している。本人の希望により非常勤から常勤へと移行したケースもある。家庭環境により勤務シフトは柔軟に対応しており有給がとりやすい雰囲気をつくっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常に資質向上の意識を持つことをすすめている。施設内では介護技術の習得のための指導や毎月の研修会にて資料を配布し知識と技術の習得を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は外部からの訪問は自粛している。管理者は同業者のグループホームや訪問看護ステーションと情報交換のための連絡を取りあいネットワークづくりに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居後は管理者が頻回に訪室又は面談し馴染みの関係を築くように努めている。職員も声かけの回数を増やし丁寧なコミュニケーションに努めている。朝夕の申し送り時に状況報告しケアの情報共有を図り、安心して過ごせる環境づくりに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時は家族の意向を確認し、家族の入居に対する思いを伺っている。疑問質問にはその都度対応しており、職員へも気軽に伝えられる雰囲気を出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のアセスメントで必要な支援を見極めるよう努めている。本人の残存機能を把握し自立支援の視点で必要なケアを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活者として作業や活動を通して双方の関係を築いていけるよう配慮している。遠慮がなく言いやすい関係を意識し、意向や要望を確認しながら生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、入居者の写真入りの生活状況や身体状況、活動予定を家族に郵送している。変化時はその都度電話連絡で状態報告も行っている。感染予防対策のため面会や外出は制限しているが、リモート面会や電話連絡などで家族と継続的に関わりが持てるよう整備している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年は面会外出制限のため馴染みの人や場との関係継続が難しかった。手紙や電話でのやり取りができるように配慮している。	暑中見舞い・絵手紙・年賀状を家族に送付する手伝いを職員が行い、馴染みの関係が継続するように支援している。カラオケが好きな利用者を近所の「カラオケ同好会」に参加することを支援した事例もある。現在は新型コロナウイルス感染防止の為に中止となっている。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を観察しながら、お互いに交流ができるように職員が介入し活動を取り入れている。調理、洗濯たたみ、食器片付けやレクリエーション、散歩、会話、リハビリなど本人の能力と意向に沿って実施できるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や支援を行う体制はとっている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1対1で話せるタイミングで本音を引き出すようにしている。生活に対する意向やケア方法の要望はその都度本人に確認している。入居者の方にとって最善の方法が選択できるよう思いに寄り添うことを大切にしている。意向の確認が困難な方には表情やしぐさからと読み取るようにしている。	居室や入浴時に話しやすい雰囲気を作り、利用者と1対1で話すことで利用者の思いや要望を聞いている。要望は送りや「引継ぎノート」で共有し、利用者の要望を反映する為の話し合いを行っている。畑仕事が好きな利用者は、菜園の草取りや収穫をするケアプランを立て実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時に家族から情報収集し把握している。又、ケアマネージャーや事業所との連携によりサービス利用の経過や状況など日常生活を送る上で必要な情報を入手しこれまでの暮らし方や生活環境が継続できるよう支援している。轍ノートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	共同生活の中で入居者の心身状態に合わせて個別ケアに取り組んでいる。ケアプランに沿ってケアを行う中、日々の状態変化に対応できるように日中夜間と観察を行い、朝夕の引継ぎで担当者へ申し送りをしている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームA	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意向を重視し立案している。家族の思いも取り入れ、自立支援を基本として快適で楽しみのある生活が送れるようなプランになるようにしている。ケアに対する意見は申し送りやミーティングにて検討し反映している。	この事業所では、利用者毎の担当者を決めず、全職員が全員の利用者の支援を行っている。計画作成者は、利用者の状況を職員に確認し、実際に見回りをして利用者のモニタリングを行っている。その後、必要であればケアプランの見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌と個別チャート表に入居者様の健康状態、排泄状況、食事状況、活動内容などや言動について記録している。援助内容が介護計画に沿ったものになっているか、課題や状態変化が生じていないかを申し送りやミーティングにて検討している。	/	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療機関に受診が必要な場合、入居者の身体状態や家族の都合などを考慮し、必要に応じて看護師が同行している。退院後の方や食事量の低下している方に対して好物を伺い特別食として提供している。	/	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今までの生活で大切にされてきた関係が継続できるように家族や関係機関に声掛けしている。地域包括支援センターと連携を図り相談、情報交換を行っている。	/	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ほとんどの入居者がかかりつけ医を協力医院に指定している。専門医の受診の場合は家族の協力を得ているが、必要に応じて看護師同行も可能である。看護師による丁寧な健康観察にて異常の早期発見ができ迅速な医師との連携につながっている。夜間も対応でき24時間オンコール体制で医療が提供できるように整えている。	入所時に利用者・家族の要望でかかりつけ医を決めている。今までの主治医をかかりつけ医とする利用者もいるが、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医としている。常勤看護師が利用者の健康状態を把握し医師と連絡を取り合っている。	

自己評価	外部評価	項 目(グループホームA	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝夕の申し送りにて入居者の健康状態や身体状態の変化や気づきなど細かな情報を報告している。看護師は毎日バイタルサイン測定を実施記録し、その内容を週1回かかりつけ医へ報告している。状態変化の際は速やかに主治医へ連絡し受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護介護サマリーを作成し情報提供している。入院中も状態確認のための連絡を適切に入れており可能な限り早期退院を促している。退院時は看護方法や療養上の注意、生活上の助言を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時や状態変化に応じて終末期に対する意向の確認を行っている。主治医、看護師を含めてカンファレンスを実施し、事業所内で実施できる医療ケアについて共通認識を深めている。今年度は1名の方の看取りをさせて頂いた。	入所時に、重度化した際の利用者・家族の要望を聞いている。実際に重度化した際には、医師の判断を基に、医師・家族・管理者などが話し合いをして今後の方針を決め、それに従って支援している。開設以来、3名の看取り事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿って冷静に対応できるよう備えている。事業所内の勉強会では発熱時、転倒時、嘔吐時、誤嚥時、怪我、意識障害等の対応方法について学んでいる。日常的にも看護師より初期対応について適切な指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回火災・水害を想定した避難訓練を実施している。夜間訓練では夜勤者だけで対応する方法や全職員に緊急連絡網を回し駆け付けた職員が避難誘導に参加し、エレベーターを使用せず、車椅子や担架を使用した誘導方法を実施している。	年2回、避難訓練を行い、その内の1回は夜間想定訓練を行っている。夜間想定訓練では、夜勤担当者がエレベーターを使用せず利用者を実際に避難・誘導している。その際に、職員にも連絡を取り、駆け付けた職員と一緒に誘導を行っている。地域の消防団と災害時の協力協定を結んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その都度入居者の思いを確認し自己選択、自己決定できるよう声かけしている。排泄時は常に羞恥心に配慮し必ず扉を閉めて対応し露出もできるだけ少なくしている。入浴時は一人の職員がお迎えの声かけから全て担当し1対1のケアを実践している。入浴は同姓介護を原則としている。	日常業務で、不適切な対応（【強制的な言葉遣い、威圧的な態度、本人の意向を無視した支援】）が見られたら職員を指導している。「利用者の後ろには家族がいる」を常に考えて行動するように指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけの際は質問系や選択系で問いかけし、相手の思いが表出できるように促している。言葉での理解が困難な方には視覚的に情報を提供し意思疎通を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々、入居者の状態が変化することを念頭に置き、職員ベースの業務にならないように注意している。入浴の日や順番は希望に沿って実施し、日中、過ごす場所や就寝時間も本人に決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの際は自分で洋服を選んでいただいている。希望者にはメイクやネイルを楽しめるよう支援している。毎月、訪問美容院を開店しカラーリングの対応も可能で髪型も本人の希望に沿ってカットしてもらえる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材配食を利用している。ご飯、汁物、一品料理は毎食手作りで調理している。下準備や盛り付け、片付けなどは入居者と共に行っている。行事食やクッキング、おやつ作りも計画的に行っている、畑で育てた野菜は収穫から調理までが入居者の方の楽しみとなっている。	食材配食を利用しているが、献立に従って調理専門員が調理して提供している。盛り付け・下準備は利用者と一緒にしている。菜園の野菜を利用して、利用者と一緒におやつや食事作りのクッキングを行っている。行事食では、利用者の要望を聞き、お寿司等を提供している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立は配食サービス先の栄養士管理でカロリー計算されている。食事摂取量が低下している方には好物を伺い提供したり栄養補助ドリンクやおやつ等で補食対応している。一日の水分摂取量は目標1,500mlと定め、起床から就寝までのタイミングに合わせてドリンクの提供を実施している。特に水分摂取が困難な方にはとろみをつけたりゼリーにしたり本人の好みに合わせ工夫して個別対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施している。仕上げの確認は職員が一人ずつ口腔内の観察を行い、歯間ブラシや舌ブラシなどを使用し口腔内の清潔保持に努めている。定期的な歯科往診に加え、自歯の動揺や痛みや腫れ等異常がある時も速やかに歯科往診につなぐように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に排泄記録をつけ排泄間隔を把握しトイレ誘導を行っている。一日の使用パット数をチェックすることでできるだけ失敗がないよう意識している。トイレ内には可動式の手すりとレストテーブルが設置され、移乗や立位保持が自力で行える環境になっている。</p>	<p>利用者毎の排泄記録を作成し、排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。夜間の排泄介助は、夜間のみポータブルトイレを使用したり、睡眠を重視するなど利用者に応じた対応を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食後のトイレを基本にし、1日1500mlを目標に水分摂取と朝食に牛乳を提供し便秘予防に取り組んでいる。毎朝のラジオ体操、オリジナル体操、食事前のスクワット体操の実施や外気浴、散歩、リハビリにて歩行の機会を増やしている。歩行が困難な方には腹部ホットパックやマッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>完全個別個浴対応で同性介護を基本としている。週3回以上入浴でき、お迎えから整容まで一人の職員が対応しプライバシーが保護された支援を実施している。時間帯も本人の希望に合わせて対応している。特殊浴槽も完備しており、身体状態に合わせた入浴が選択できる。</p>	<p>入浴は午前・午後実施し、体位保持が困難な利用者には、二人対応での機械浴を実施している。通常の入浴は、居室での準備から1対1の完全個別対応とし、十分な時間を確保して利用者と会話をしながら入浴を行っている。同性による入浴介護を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(グループホームA	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	日中の休憩時間や就寝時間は入 居者の方に合わせて支援してい る。夜間は照明や物音、他の入 居者の方の対応などで安眠を妨 げないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬管理、投薬準備は看護師が 行っているが、投薬は介護職員 が行うため必ず声出しダブル チェックを行うよう徹底して 実施している。事業所内の勉強 会で薬の目的や副作用など知 識の習得を図っている。医師 の処方箋に基づいて看護師と 薬剤師が連携し変更や状態変 化に対し迅速に対応しており、 入居者に合わせた内服方法の 検討も随時薬剤師に相談して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換 等の支援をしている。	事業所の前にある畑には季節 の野菜を育てており日々の成 長、収穫を楽しみにしている。 経験豊富な入居者より野菜作 りの知識を指導していただく ことも多い。庭の草取りも一緒 に行う。誕生日には一人ずつ 誕生日カードとケーキを用意 し職員や入居者の皆様と一緒 にお祝いをする。希望にてア ルコールの提供も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支 援している。	コロナ感染症防止対策にて 人の多い場所への外出は自 粛している。外気浴や近所 への散歩は日常的に希望に 沿って実施している。医療機 関の受診が必要な方は家族 の協力を得ながら支援も 行っている。	天気の良い日には、出来る だけ散歩するようにしてい る。新型コロナ感染防止 の為に、外出が制限され ている。新型コロナ感染 が収束した際には、ド ライブや買い物を楽しむ 外出、外食に出かけたい と考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解して おり、一人ひとりの希望 や力に応じて、お金を 所持したり使えるよう に支援している。	希望者には所持金を使 えるように支援してい る。訪問美容院で料 金の支払いができる ようサポートしてい る。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームA)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各フロアのカウンターに電話を設置している。携帯電話を所持している方もおり、希望に応じ職員が通話のサポートしている。家族へ絵手紙を送ったり、自身の近況報告の手紙を書かれる方もいる。オンライン面会により顔を見ながら会話ができるシステムを整備し、いつでも家族とつながるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者と共に製作した季節の壁画を飾り、生花をテーブルに飾る等して季節感を採り入れている。毎週書かれた習字の作品や入居者の皆様の写真の掲示が生活の振り返りや関わりのツールとなっている。窓からの景色や差し込む日差しが自然に感じられるよう調整している。浴室やトイレの内側にカーテンを引き扉の開閉の際他人の視線を不快に感じないように配慮している。	季節の花を飾っているが、時には利用者が花を生けることもある。クリスマス・ひな祭り・七夕などの季節の飾りをひい、利用者と一緒に制作した壁画や利用者の作品、写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内は自由に移動ができるように配慮している。畳コーナーを利用したり、気の合った方向同士が会話を楽しめるようにサポートしている。フロア外ではホールや廊下に椅子を置いており、集団から離れて過ごす対応も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れたもの愛着があるものを持参して頂いている。テレビ、鏡台、冷蔵庫、仏壇、パチンコ台など入居者が快適な生活に必要としているものを配置している。特に写真は記憶に代わる大切なツールとして家族写真や過去の写真を持参してもらっている。本人の写真もアルバムに綴り居室に置きいつでも見られるよう配慮している。	居室に設置されている備品以外に、テレビ・冷蔵庫を持ち込む利用者もいる。社交ダンスが趣味だった利用者は愛用のCDを持ち込み、仏壇・家族の位牌を持って来られる利用者もいる。利用者が居心地よく過ごせるようにそれぞれ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居後は安心して過ごせるように居室やトイレ、椅子に目印の名前カードやぬいぐるみ、造花をつけている。廊下には手すりが設置されトイレ内は車椅子や歩行器でも安楽に移動が行えるような空間になっている。居室内はその方の身体状態に応じて移乗バーやPトイレなどを設置し安全かつ自立生活に向けた環境整備をしている。		

V アウトカム項目(グループホームA) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホームB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。</p>	<p>「常に相手の立場に立ち考え判断し行動する」という理念に基づいてケアを実践している。理念は職員室に掲示し全職員が共有できるようにしている。</p>		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	<p>入居者が外気浴や散歩で屋外に出ることで顔なじみの関係を築くよう意識し、挨拶や会話ができるように促している。</p>		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	<p>地域の認知症の相談窓口であることを自治会長や地域の民生委員へ伝えている。また、運営推進会議で認知症の方の関わり方について事例を通して伝えている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進委員にはかかりつけ医、自治会長、民生委員、地域包括支援センター、呉市福祉保健課、家族4名で構成し定期的に書面会議にて開催している。意見要望は別紙にて返送して頂き職員間で情報共有し改善やサービス向上に向けて取り入れている。</p>		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議の資料、議事録を郵送することでサービス内容を伝えている。また、貴重な意見を返送にて頂くことで関係を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホームB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	「身体的拘束適正化のための指針」を事業所内に掲示し職員の理解を図っている。毎回の運営推進会議にて身体的拘束適正化委員会を行い、現状報告やあらゆる取り組みを伝え委員の方から意見を頂いている。年2回の施設内勉強会では個別の事例を含めて身体拘束をしないケアの実践に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	身体拘束廃止と共に虐待防止の施設内研修会を行っている。何が不適切ケアなのかを知り、気が付いた職員は相手に伝えることで組織全体で言いやすい雰囲気をつくるよう意識している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者がいる。後見人とは随時、連絡をとりあい情報交換、情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、報酬改定時は書面にて説明を行い、疑問質問について尋ね、理解納得を得てから署名を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者へは個別に面談し困りごとや不安なこと要望を聞いている。家族は面会時などに意見要望について尋ねている。施設内に意見箱を設置し誰でも投稿しやすいようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎日朝夕の申し送りや申し送りノートで意見や提案を聞く機会を設けている。報告や連絡事項はノートに記載すること情報共有を図っている。現在、コロナ禍の為ミーティングは開催していないが、意見提案がある際は介護長、リーダーを通して検討していくよう対応している。職員個別面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務意欲や能力により役職を設けたり、研修会への参加、資格の取得を促している。本人の希望により非常勤から常勤へと移行したケースもある。家庭環境により勤務シフトは柔軟に対応しており有給がとりやすい雰囲気をつくっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常に資質向上の意識を持つことをすすめている。施設内では介護技術の習得のための指導や毎月の研修会にて資料を配布し知識と技術の習得を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	現在は外部からの訪問は自粛している。管理者は同業者のグループホームや訪問看護ステーションと情報交換のための連絡を取りあいネットワークづくりに努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居後は管理者が頻回に訪室又は面談し馴染みの関係を築くように努めている。職員も声かけの回数を増やし丁寧なコミュニケーションに努めている。朝夕の申し送り時に状況報告しケアの情報共有を図り、安心して過ごせる環境づくりに配慮している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時は家族の意向を確認し、家族の入居に対する思いを伺っている。疑問質問にはその都度対応しており、職員へも気軽に伝えられる雰囲気を出すように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時のアセスメントで必要な支援を見極めるよう努めている。本人の残存機能を把握し自立支援の視点で必要なケアを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	共同生活者として作業や活動を通して双方の関係を築いていけるよう配慮している。遠慮がなく言いやすい関係を意識し、意向や要望を確認しながら生活して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、入居者の写真入りの生活状況や身体状況、活動予定を家族に郵送している。変化時はその都度電話連絡で状態報告も行っている。感染予防対策のため面会や外出は制限しているが、リモート面会や電話連絡などで家族と継続的に関わりが持てるよう整備している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年は面会外出制限のため馴染みの人や場との関係継続が難しかった。手紙や電話でのやり取りができるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性を観察しながら、お互いに交流ができるように職員が介入し活動を取り入れている。調理、洗濯たたみ、食器片付けやレクリエーション、散歩、会話、リハビリなど本人の能力と意向に沿って実施できるよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も必要に応じて相談や支援を行う体制はとっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1対1で話せるタイミングで本音を引き出すようにしている。生活に対する意向やケア方法の要望はその都度本人に確認している。入居者の方にとって最善の方法が選択できるよう思いに寄り添うことを大切にしている。意向の確認が困難な方には表情やしぐさからと読み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や面会時に家族から情報収集し把握している。又、ケアマネージャーや事業所との連携によりサービス利用の経過や状況など日常生活を送る上で必要な情報を入手しこれまでの暮らし方や生活環境が継続できるよう支援している。轍ノートを活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	共同生活の中で入居者の心身状態に合わせて個別ケアに取り組んでいる。ケアプランに沿ってケアを行う中、日々の状態変化に対応できるように日中夜間と観察を行い、朝夕の引継ぎで担当者へ申し送りを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の意向を重視し立案している。家族の思いも取り入れ、自立支援を基本として快適で楽しみのある生活が送れるようなプランになるようにしている。ケアに対する意見は申し送りやミーティングにて検討し反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	業務日誌と個別チャート表に入居者様の健康状態、排泄状況、食事状況、活動内容などや言動について記録している。援助内容が介護計画に沿ったものになっているか、課題や状態変化が生じていないかを申し送りやミーティングにて検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	医療機関に受診が必要な場合、入居者の身体状態や家族の都合などを考慮し、必要に応じて看護師が同行している。退院後の方や食事量の低下している方に対して好物を伺い特別食として提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	今までの生活で大切にされてきた関係が継続できるように家族や関係機関に声掛けしている。地域包括支援センターと連携を図り相談、情報交換を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ほとんどの入居者がかかりつけ医を協力病院に指定している。専門医の受診の場合は家族の協力を得ているが、必要に応じて看護師同行も可能である。看護師による丁寧な健康観察にて異常の早期発見ができ迅速な医師との連携につながっている。夜間も対応でき24時間オンコール体制で医療が提供できるように整えている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	朝夕の申し送りにて入居者の健康状態や身体状態の変化や気づきなど細かな情報を報告している。看護師は毎日バイタルサイン測定を実施記録し、その内容を週1回かかりつけ医へ報告している。状態変化の際は速やかに主治医へ連絡し受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護介護サマリーを作成し情報提供している。入院中も状態確認のための連絡を適切に入れており可能な限り早期退院を促している。退院時は看護方法や療養上の注意、生活上の助言を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時や状態変化に応じて終末期に対する意向の確認を行っている。主治医、看護師を含めてカンファレンスを実施し、事業所内で実施できる医療ケアについて共通認識を深めている。今年度は1名の方の看取りをさせて頂いた。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	マニュアルに沿って冷静に対応できるよう備えている。事業所内の勉強会では発熱時、転倒時、嘔吐時、誤嚥時、怪我、意識障害等の対応方法について学んでいる。日常的にも看護師より初期対応について適切な指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回火災・水害を想定した避難訓練を実施している。夜間訓練では夜勤者だけで対応する方法や全職員に緊急連絡網を回し駆け付けた職員が避難誘導に参加し、エレベーターを使用せず、車椅子や担架を使用した誘導方法を実施している。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	その都度入居者の思いを確認し自己選択、自己決定できるよう声かけしている。排泄時は常に羞恥心に配慮し必ず扉を閉めて対応し露出もできるだけ少なくしている。入浴時は一人の職員がお迎えの声かけから全て担当し1対1のケアを実践している。入浴は同姓介護を原則としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかけの際は質問系や選択系で問いかけし、相手の思いが表出できるよう促している。言葉での理解が困難な方には視覚的に情報を提供し意思疎通を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々、入居者の状態が変化することを念頭に置き、職員ベースの業務にならないように注意している。入浴の日や順番は希望に沿って実施し、日中、過ごす場所や就寝時間も本人に決めてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えの際は自分で洋服を選んでいただいている。希望者にはメイクやネイルを楽しめるよう支援している。毎月、訪問美容院を開店しカラーリングの対応も可能で髪型も本人の希望に沿ってカットしてもらえる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材配食を利用している。ご飯、汁物、一品料理は毎食手作りで調理している。下準備や盛り付け、片付けなどは入居者と共に行っている。行事食やクッキング、おやつ作りも計画的に行っている、畑で育てた野菜は収穫から調理までが入居者の方の楽しみとなっている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホームB)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立は配食サービス先の栄養士管理でカロリー計算されている。食事摂取量が低下している方には好物を伺い提供したり栄養補助ドリンクやおやつ等で補食対応している。一日の水分摂取量は目標1,500mlと定め、起床から就寝までのタイミングに合わせてドリンクの提供を実施している。特に水分摂取が困難な方にはとろみをつけたりゼリーにしたり本人の好みに合わせ工夫して個別対応している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後口腔ケアを実施している。仕上げの確認は職員が一人ずつ口腔内の観察を行い、歯間ブラシや舌ブラシなどを使用し口腔内の清潔保持に努めている。定期的な歯科往診に加え、自歯の動揺や痛みや腫れ等異常がある時も速やかに歯科往診につなぐように努めている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別に排泄記録をつけ排泄間隔を把握しトイレ誘導を行っている。一日の使用パット数をチェックすることでできるだけ失敗がないよう意識している。トイレ内には可動式の手すりとレストテーブルが設置され、移乗や立位保持が自力で行える環境になっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食後のトイレを基本にし、1日1500mlを目標に水分摂取と朝食に牛乳を提供し便秘予防に取り組んでいる。毎朝のラジオ体操、オリジナル体操、食事前のスクワット体操の実施や外気浴、散歩、リハビリにて歩行の機会を増やしている。歩行が困難な方には腹部ホットパックやマッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>完全個別個浴対応で同姓介護を基本としている。週3回以上入浴でき、お迎えから整容まで一人の職員が対応しプライバシーが保護された支援を実施している。時間帯も本人の希望に合わせて対応している。特殊浴槽も完備しており、身体状態に合わせた入浴が選択できる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>日中の休憩時間や就寝時間は入 居者の方に合わせて支援してい る。夜間は照明や物音、他の入 居者の方の対応などで安眠を妨 げないように配慮している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬管理、投薬準備は看護師が 行っているが、投薬は介護職員 が行うため必ず声出しダブル チェックを行うよう徹底して 実施している。事業所内の勉強 会で薬の目的や副作用など知 識の習得を図っている。医師の 処方箋に基づいて看護師と薬 剤師が連携し変更や状態変化 に対し迅速に対応しており、 入居者に合わせた内服方法の 検討も随時薬剤師に相談して いる。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。</p>	<p>事業所の前にある畑には季節の 野菜を育てており日々の成長、 収穫を楽しみにしている。経 験豊富な入居者より野菜作り の知識を指導していただくこ とも多い。庭の草取りも一緒 に行う。誕生日には一人ずつ 誕生日カードとケーキを用意 し職員や入居者の皆様と一緒 にお祝いをする。希望にてア ルコールの提供も行っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所 でも、本人の希望を把握し、 家族や地域の人々と協力しな がら出かけられるように支援 している。</p>	<p>コロナ感染症防止対策にて人 の多い場所への外出は自粛し ている。外気浴や近所への散 歩は日常的に希望に沿って 実施している。医療機関の受 診が必要な方は家族の協力を 得ながら支援も行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。</p>	<p>希望者には所持金が使えるよ うに支援している。訪問美容 院で料金の支払いができるよ うサポートしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(グループホームB	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	各フロアのカウンターに電話を設置している。携帯電話を所持している方もおり、希望に応じ職員が通話のサポートしている。家族へ絵手紙を送ったり、自身の近況報告の手紙を書かれる方もいる。オンライン面会により顔を見ながら会話ができるシステムを整備し、いつでも家族とつながるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者と共に製作した季節の壁画を飾り、生花をテーブルに飾る等して季節感を採り入れている。毎週書かれた習字の作品や入居者の皆様の写真の掲示が生活の振り返りや関わりのツールとなっている。窓からの景色や差し込む日差しが自然に感じられるよう調整している。浴室やトイレの内側にカーテンを引き扉の開閉の際他人の視線を不快に感じないように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内は自由に移動ができるように配慮している。畳コーナーを利用したり、気の合った方同士が会話を楽しめるようにサポートしている。フロア外ではホールや廊下に椅子を置いており、集団から離れて過ごす対応も行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使い慣れたもの愛着があるものを持参して頂いている。テレビ、鏡台、冷蔵庫、仏壇、パチンコ台など入居者が快適な生活に必要なものとして配置している。特に写真は記憶に代わる大切なツールとして家族写真や過去の写真を持参してもらっている。本人の写真もアルバムに綴り居室に置きいつでも見られるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居後は安心して過ごせるように居室やトイレ、椅子に目印の名前カードやぬいぐるみ、造花をつけている。廊下には手すりが設置されトイレ内は車椅子や歩行器でも安楽に移動が行えるような空間になっている。居室内はその方の身体状態に応じて移乗バーやトイレなどを設置し安全かつ自立生活に向けた環境整備をしている。		

V アウトカム項目(グループホームB) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム歩歩

作成日 令和2年12月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		地域住民との付き合いや交流する機会がない。	感染状況が収束したら地域住民と交流する機会をつくる。	施設の文化祭に地域の方を招待する。保育所の園児を招き入居者と交流してもらう。	令和4年3月迄
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。